



## 「どうする、拉致問題」

北朝鮮人権人道ネットワーク 代表 陶久敏郎さん

阿南市の花「ひまわり」の花言葉は、「光輝く」です。人権について考え守っていくことが、まさに光り輝く阿南市づくりにつながります。人権教育・啓発コーナー「ひまわり」では、人権に対する思いを掲載していきます。

拉致問題はわが国の主権と人権および国民の生命と安全に関わる重大な問題として、政府は平成14年9月の日朝平壤宣言以降、内閣の最重要にして最優先課題として取り組んでいるが、同年10月に5人の拉致被害者が帰国してからは1ミリたりとも前進していない。

それではどう解決していくのか。「北朝鮮との関係に関する政府の方針は、日朝平壤宣言に基づき、拉致、核ミサイルといった諸懸案を包括的に解決し、日朝国交正常化を実現していく」というものであり、具体的には、「政府としては、いわゆる「ストックホルム合意」（平成26年5月）に基づき、拉致問題をはじめとする日本人に関する全ての問題の解決に向け全力を尽くしていく考えである」とし、また、この合意を破棄する考えはないことも

明らかにしている。これからすると、政府方針は、拉致被害者家族の「家族会」や支援団体の「救う会」が主張している「拉致問題最優先」「全拉致被害者即時全員一括帰国」とは大きくかけ離れている。

しかし、この政府方針がいま大きく揺らいでいる。本年6月に大阪で開かれたG20に出席したトランプ大統領は、同日30日に板門店で北朝鮮の金正恩国務委員長と事実上の3回目となる米朝首脳会談を実現している。この会談で、両者は膠着状態にある非核化交渉を再開するものの、非核化を急がないこと

で合意した。「非核化を急がない」とはどういうことか。私は、①北朝鮮がアメリカまで届くICBM（大陸間弾道ミサイル）に核弾頭を搭載して攻撃しない、

②新たな核・ミサイル実験をしない、③北朝鮮の核・ミサイルを中東に輸出しないことを遵守すれば、アメリカは北朝鮮の核保有と金正恩体制の存続を容認するという意味と解釈する。また、板門店に同行した文韓国大統領が米朝首脳会談に同席できなかったことは、北朝鮮の核・ミサイル問題は米朝間の交渉課題であり、日本と韓国は交渉国には入らないと公言されたようなものである。つまり、日朝平壤宣言に基づき拉致、核ミサイルといった諸懸案を包括的に解決するといったわが国の方針は根底から崩れ去ったとらえるべきだ。

では、拉致問題をどう解決するのか。北朝鮮は、「拉致は解決済みだ」という主張を崩していない。安倍首相は前提条件なしで日朝首脳会談を呼び掛けているが、日本からのカネにしか関心のない北朝鮮と膠着状態は続いており、「拉致問題を私の内閣で解決する」と公言した安倍首相は足元をみられている。

こうなると拉致問題の解決は絶望的に見えるが、私は全く可能性がないとは思わない。わが国が国際社会と連携して北朝鮮内の厳しい人権状況を追求し、その改善をめざす活動に積極的に取り組み、その過程でストックホルム合意に明記されている

拉致問題をはじめとする日本人の諸問題の解決をめざしていくことを提案したい。北朝鮮人民が自らの過酷

な人権状況に不満を持ち、その不満が拡大していけば金正恩独裁体制の根幹を揺るがすことになる。北朝鮮はこのことを非常に気にしており、かつてのソビエト連邦崩壊やベルリンの壁崩壊は自分たちに無関係とは受け止めていないはずだ。

われわれ「北朝鮮人権人道ネットワーク」は、北朝鮮人民に多くの「情報」を伝えることによって彼らの人権への意識改革を促したい。インターネットの時代、「情報」の発信こそが最大の武器である。昨年末に国連に意見書を提出できるNGO（非政府組織）として登録され、その際に開設したブログを使い北朝鮮の人権状況の実態とその改善に繋がる情報を順次世界に発信していきたい。当ブログは北朝鮮をはじめ多くの国がアクセスしているとの情報を得ていることから、北朝鮮に人権侵害を受けた当事者および家族等の声をブログに掲載する「世界に届け、NKHNW※の声」というプロジェクトを本年6月から始めている。

最後に、微力ではあるが諦めることなく確かな歩みを進めていくことをお約束したい。

※NKHNW：北朝鮮人権人道ネットワーク

### 問い合わせは

人権・男女参画課  
(☎22-3094) へ

